

学年							小笠原村立小笠原中学校 美術科 3年 年間指導計画					
小学校						中学校						
1	2	3	4	5	6	1	2	③				
月	単元名	絵巻物「私の夢」(14)				系統単元性の	2年時に学んだデッサンで明度のみの表現をしている。墨での表現は鉛筆と違って消すことは出来ないが、明度の表現という意味では鉛筆からの発展と考える。					
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	○水墨画「絵巻物－私の夢－」【A表現】【B鑑賞】						つまずきやすいポイント	①消すことが出来ないので、真っ黒になってしまう。 ②水が多すぎて、にじみすぎてしまう。				
	【ねらい】 自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で深く観察し、形の特徴、よさや美しさなどを感じ取り、創造力を働かせて豊かに発想し構想する。感性、造形感覚や美的感覚などを働かせ、材料や用具を効果的に生かして美しく創造的に表現する。  【内容】 ・絵巻物の歴史、特徴、代表作品等について学ぶ。 ・水墨画の特徴と技法について学ぶ。(1) ・1場面目、2場面目を時系列に構成し、制作する。(8) ・作家の作品から、水墨画の表現を学ぶ。 ・3場面目を制作する。(4)							工夫・手立て	①明度の高い部分は紙の色を残すように指導する。 ②雑巾を準備させる。にじみではなくかすれの技法を使い、明度差を表現させる。			
	評価規準											
知識・技能	絵巻物の特徴、その構成や方法を理解している。水墨画の特徴を理解している。(知) 水墨画の特徴を活かして、的確で美しい表現ができています。(技)				思考・表・現・判断	水墨画の技法を利用し、もの見方・感じ方を深め発想を豊かに表現する。水墨画の特徴から発想し、明度差や技法を利用した豊かな表現ができています。(発表) 水墨画の技法を利用し、もの見方・感じ方を深め発想を豊かに表現する。水墨画の特徴から発想し、明度差や技法を利用した豊かな表現ができています。(発鑑)				主体的に学習に取り組む態度	絵巻物の特性を理解し、楽しく美しく生き生きと表現している。水墨画の特徴を活かして、丁寧に制作をしようとしている。(態表) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に墨の表現の豊かさや余白により生まれる美しさなどを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)	
定期考査・行動観察・作品		定期考査・行動観察・作品		定期考査・行動観察・作品		定期考査・行動観察・作品		定期考査・行動観察・作品・自己評価				
月	単元名	鑑賞レポート				系統単元性の	修学旅行で京都奈良に行くにあたり、京都奈良の寺社仏閣、仏像等について講義を行った後で、自分たちのコースで見ることのできる仏像や建物や絵画などから1つ選び、調べてまとめることで、実際に京都奈良に行った時の学習を深める。					
7	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	○日本美術史レポート「歴史の中の作品を分析する」【B鑑賞】(2)						つまずきやすいポイント	①仏教用語や漢字が難しい。				
	【ねらい】 美術文化や文化遺産等に対する関心を高め、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などに親しみ、感性や創造力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、創造力の豊かさなどを感じ取り、味わったり、理解や見方を深めたりする。 仏像彫刻や建築物のよさや美しさに関心をもつ。仏像や建築物に込められた願いや思いを考えて鑑賞する。  【内容】 ・仏像の制作技法と代表作品を学ぶ。 ・見本を見て、レポートの内容を理解する。 ①作品の基本情報 ②分析したこと ③スケッチ ④考えたことや感じたこと							工夫・手立て	①資料集やスライドなど、視覚化して伝える。			
	評価規準											
知識・技能	奈良時代・平安時代を中心とした日本美術史の大きな流れを理解し、文化遺産に親しみ、流れを理解する。(知) 鑑賞した作品を、丁寧に美しく模写することができている。(技)				思考・表・現・判断	多くの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫について考えるなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。(発鑑) 考えたことや感じたことから、作品に対して自分なりの考えをもち、レポートにまとめる。(発鑑)				主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、目ざした作者の表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑) 美術作品に関心をもち、その作品等について調べたものをまとめ、考えを深める。(態鑑)	
ワークシート 定期考査		ワークシート 定期考査		ワークシート 定期考査		ワークシート 定期考査		ワークシート 定期考査				

学年													
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 美術科 3年 年間指導計画					
1	2	3	4	5	6	1	2	③					
10	11	単元名 私は印象派(8)	系単元性	水墨画で取り組んだ、下地から積み上げて描くことや、道具の選択などをもとに、今度はカラーで作品を表現する。									
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫							
○「私は印象派」A表現B鑑賞 【ねらい】西洋美術史の流れの中から印象派が生まれた経緯を知り、その特徴をとらえる。自分の気持ちのフィルタをかけることで、色や形を変化させ、自分の感情の伝達について試行錯誤して表現する。 【内容】 ・印象派についての学習(1) ・アイデアスケッチ(1) ・作品制作(6)						つまずきやすいポイント		①フィルターとしてかける「感情」が「明るい」「楽しい」などの、深みのない設定をする。 ②描く物を決めてから、後付けで感情を決めてしまう。					
						工夫・手立て		①生徒と話をしていく中で、場面設定を確認し、感情を少しでも深めていくような会話をする。 ②必ず先に感情を決めるように、前もって理由を説明しておく。					
評価規準													
知識・技能		印象派における作品について、その特徴を理解する。(知) 対象を観察して、形を追求し、美しく表現をする。(技)			思考・表現・判断		印象派の特徴である固有色にとられない色を意識して、豊かで美しい色の選択をする。(発表) 印象派の美術作品について、そのよさや美しさを感じ取り、表現意図や技法について考えるなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。(発鑑)			主体的に学習に取り組む態度		印象派の表現について関心をもち、構図や色を考えて、丁寧に制作をしようとする。(態表) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に印象派の絵画について考え、そのよさや美しさを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)	
		定期考査・行動観察・作品					定期考査・行動観察・作品					定期考査・行動観察・作品・自己評価	
12	単元名 鑑賞「ラス・メニナス」(1)	系単元性	1年次に学んだ「アルノルフィニ夫妻の肖像」2年次に学んだ「最後の晩餐」で学んだ見方や考え方を土台として、画中画を想像するという少し複雑な鑑賞に取り組む。										
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫							
○鑑賞「ラス・メニナス」B鑑賞 【ねらい】美術文化や文化遺産等に対する関心を高め、美術を愛好し、心豊かな生活を創造していこうとする。感性や創造力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、理解や見方を深めたりする。 【内容】 ・絵画の基本情報の確認 ・初見の印象 ・画中画の推測						つまずきやすいポイント		①正解を求めてしまう生徒がいる。					
						工夫・手立て		①鑑賞に正解はないので、自分の考えを述べるができるように、評価の基準も含めて説明する。					
評価規準													
知識・技能		「ラス・メニナス」の歴史的背景や作者について理解し、作品の制作意図等について理解する。(知)			思考・表現・判断		「ラス・メニナス」について自ら考えを深め、自分なりの考え方をもちつことができる。(発鑑)			主体的に学習に取り組む態度		「ラス・メニナス」のよさや美しさを感じ取り、表現意図や技法について考えるなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。(態鑑)	
		定期考査					定期考査・ワークシート					定期考査・ワークシート	

学年							小笠原村立小笠原中学校 美術科 3年 年間指導計画				
小学校						中学校					
1	2	3	4	5	6	1					2
月	単元名	篆刻(10)					系統単元性	特別な系統はないが、義務教育最後の作品として、自分の名前を彫った印を制作し、今後日常生活の中で使用し、作ったものを生活で使う楽しさを味わわせる。			
12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>○「篆刻」A表現B鑑賞</p> <p>【ねらい】 生活の中のデザインや工芸などに関心を持ち、感性や美的感覚を働かせてよさや美しさなどを感じ取ろうとする。生活の中のデザインや工芸などを基に感性や美的感覚を働かせてよさや美しさ、用途や機能、使用する者の気持ちを考えて発想する。</p> <p>【内容】 ・篆刻の歴史、種類、進め方などを理解する。(1) ・印稿を制作する。(2) ・石を削る。(1) ・石を彫る。(5) ・押印する。(1)</p>						つますきやすしいポイント	<p>①石を削る時に平らに削れずに、印面に上下ができてしまう。 ②印稿を作成する時、彫ることを意識せずに細い線で描いてしまう。また、余白のバランスを意識しないで描いてしまう。</p>			
							工夫・手立て	<p>①紙やすりを下にして、石をゆっくり平行に動かして石を削るように指導する。石を机の上に置き、横から見て隙間を確認するように注意する。 ②彫るということは物理的な太さが必要になるので、二重線で描くように指導する。上下左右のバランスが同じになるように、線を引かせる等して意識して揃えさせる。</p>			
評価規準											
知識・技能	篆刻について、その歴史や法則を知り、印の有用性を学ぶ。(知) 構図や全体的なバランスなどを意識して、丁寧に美しく彫刻する。(技)					思考・表現・判断	構図、全体的なバランスなどを考えて構成している。決められた文字を与えられた枠の中で構成し、美しくデザインする。(発表)			主体的に学習に取り組む態度	創意工夫をして、美しく制作できるように丁寧に作業をする。(態表)
	定期考査・行動観察・作品						定期考査・行動観察・作品				定期考査・行動観察・作品・自己評価